

製品名: ILKAP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12580**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	ILKAP
別名	ILKAP; Integrin-linked kinase-associated serine/threonine phosphatase 2C; ILKAP
遺伝子 ID	80895.0
SwissProt ID	Q9H0C8
免疫原	抗血清はヒト ILKAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

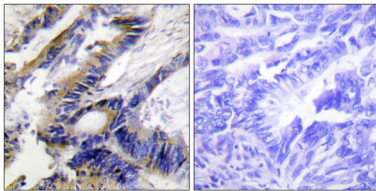
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、PP2Cファミリーに属するタンパク質セリン / スレオニンホスファターゼです。このタンパク質は、インテグリンを介したシグナル伝達の調節因子であるインテグリン結合キナーゼ (ILK/ILK1) と相互作用し、ILKのキ

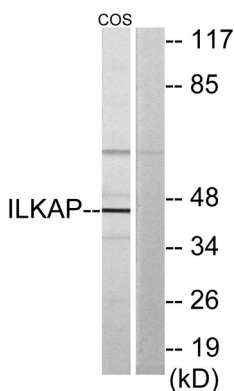
ナーゼ活性を調節します。ILKとの相互作用を通じて、このタンパク質はILKを介したグリコーゲン合成酵素キナーゼ 3β (GSK3β)のシグナル伝達プロセスに選択的に影響を及ぼし、Wntシグナル伝達経路に関与する可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。補因子: サブユニットあたり2個のマグネシウムまたはマンガンイオンを結合します。機能: 適切なリン酸化状態が細胞増殖に重要である可能性のある基質の脱リン酸化を介して、細胞周期の進行を制御する役割を果たす可能性のあるタンパク質ホスファターゼ。インテグリン結合キナーゼ (ILK) と選択的に会合し、細胞接着および増殖因子シグナル伝達を調節する。ILK-GSK3Bシグナル伝達系を阻害し、がん化の阻害に重要な役割を果たす可能性がある。誘導: マグネシウムによって刺激されるのではなく、阻害される。類似性: PP2Cファミリーに属する。類似性: PP2C類似ドメインを1つ含む。サブユニット: ILKと相互作用する。ILKとの特異的な会合は、どちらのパートナーの触媒活性にも依存しない。組織特異性: 広く発現している。横紋筋で最も高い発現レベルを示す。様々な平滑筋組織では、はるかに低いレベルが認められる。

研究分野

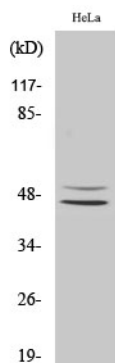
画像データ



ILKAP抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



ILKAP抗体を用いたCOS7細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ILKAPポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析